社会に繋がる

世界の国々や地域の人々に心と力を合わせて

●社会貢献とコミュニケーション

熊野川洪水対策工事における地域住民との関わり

■熊野川下流部河道浚渫工事、熊野川中流部河道浚渫工事

2014年から2015年にかけて施工したこの2つの工事は、熊野川下流域において2011年9月に発生した台風12号の甚大な被害を受け、計画規模の洪水を安全に流下させるための対策工事として、国土交通省近畿地方整備局から発注され、河道の浚渫工事などを行いました。

日頃より、地域住民の洪水対策工事への期待と関心が大きいことを強く感じ、工事を行う我々施工者と地域住民の皆さまとの日々のコミュニケーションが、工事への理解や協力を得るためには重要であると考えました。

そこで、近隣の小・中学生を現場に迎え、施工中の重機の試乗などができる現場見学会を開催し、事業目的や施工状況の説明を行いました。また、熊野川下流域周辺の清掃活動、除草作業および地域の祭事等の行事に積極的に参加して地域住民とのコミュニケーションを図り、円滑な施工を実現することができました。

重機の試乗

現場見学会状況

地元のお祭りに交流ブースを設置

■気仙沼湾横断橋松崎地区下部工工事

本工事は三陸沿岸道路の一環として、国土交通省東北地方整備局発注の(仮称)気仙沼湾横断橋の橋脚を施工しています。完成後の橋は、地域のシンボルとなります。我々は完成後だけでなく、施工段階から地域の方に親しみをもっていただきたいと思い、地元とのコミュニケーションを大切にしながら施工を進めています。

そんな折、地域の自治会長のお宅を訪問した際に「公民館まつり」が開催されることを伺いました。地域住民と直に接することができる良い機会と思い、交流ブースの出展を決めました。

東亜坊やによるクイズ大会

使用材料へのメッセージを記入

公民館まつりでは、完成パース図やデモ動画を用いて完成後の橋と、橋のある生活をイメージしていただきました。皆さん、想像以上の規模になることに驚かれるとともに、早く完成形が見たいと期待を膨らまされていました。また、当社のキャラクターである“東亜坊や”によるクイズ大会や、実際に工事で使用する材料へのメッセージの記入、地下約50mから採取した支持層(岩盤)の展示を行いました。お子さまたちも土木に対する興味が湧いたのでは、と期待しています。

今後も地元とのコミュニケーションを大切にしながら工事を進めたいと考えています。

地域とともに

■東北中央自動車道村山トンネル工事

東北中央自動車道は、福島県相馬市から秋田県横手市までをつなぐ高速道路で、本工事は東根IC～尾花沢IC間に建設される唯一のトンネル工事でした。この工事により、開通している東北中央自動車道と尾花沢新庄道路が結節し、山形市から新庄市間が1本の高速道路で結ばれます。通勤利便性の向上、地域医療の支援、物流の強化、観光促進など多くの効果が期待され、特に地域住民から注目を集める工事でした。

作業所長は、町内会や小学校などに積極的に挨拶にまわり、地域とのコミュニケーションを大切に育みながら工事を進めました。工事現場の出入り口では、地域住民への挨拶や一般車両を最優先通行するといった現場ルールを徹底させ、その様子は新聞でも紹介されました。施工が進むにつれ、近隣の方々から地域で取れるサクランボやスイカ、メロンなどの収穫物の差し入れをいただくこともありました。現場見学も定期的に開催し、2015年12月に迎えた貫通式では約150人の関係者を招き、通り初めや鏡割りなどを行ったほか、村山市立西郷小学校の児童らがたるみこしを担ぐなど、一緒になってトンネルの貫通を祝いました。今年6月に完成を迎え、地域のご理解とご協力に支えられながら進めた工事でした。

貫通式　地元小学生のたるみこし

地元小学生　現場見学会

工事中の校舎を見学

泉大津市の小学校における増改築事業の現場では、学び舎として児童の成長を助けるとともに、多目的室の一つを和室として地域に開放するスペースを設けるなど、地域の交流の場としての機能をもつ校舎の建設を進めています。

児童は保護具を着用して現場へ

この現場では児童とのコミュニケーションの一環として建設中の校舎において見学会を開催しました。5年生の児童全員を対象に1クラスごと順番に4回の案内となりましたが、普段見ることのできない工事現場とあって、入場の際には歓声が上がっていました。現場の中では、当社の所長がガイド役となって子どもたちを誘導しながら、ものづくりに興味をもってもらえるように写真や図面を使い建物が出来上がっていく仕組みを話したり、実際の建設資材を見せたりするなど工夫をしていたこともあり、子どもたちも興味深く見入っていました。

最初は緊張気味だった子どもたちも見学の後半には打ち解け、最後の質問時間には工事に対する疑問に交じって「監督さんは何歳ですか？」といった質問も出るなど和やかな雰囲気の中で体感する見学会となりました。

児童は現場内を廻りながら建物の出来上がる工程を聞く

見学の最後に児童からの質問に答える

社会に繋がる

世界の国々や地域の人々に心と力を合わせて

●社会貢献とコミュニケーション

東京湾大感謝祭2015に参加

昨年度に引き続き、国や自治体、市民、企業など東京湾に係る多様な団体が横浜赤レンガ倉庫に年1回大集合する「東京湾大感謝祭」に出展しました。東京湾を発祥の地とする当社にとっては、大切なイベントのひとつです。2015年10月23日～25日に開催された同感謝祭は東京湾官民連携フォーラムの主催するお祭りで、開催期間中、約8万2千人の方々が参加されました。当社の展示で特に子どもたちを中心に大人気だったのが、模型：水中バックホウの体験コーナーです。当社の得意とする海洋土木の仕事をもっと知っていただこうという企画で、模型の前には、常に順番待ちの子どもたちが列をなし、他の子どもの操作を真剣に見つめていたのが印象的でした。また、東京湾の海の生き物に関するクイズやなぞなぞにも多数の参加をいただき、東京湾の魅力を知ってもらう良い機会となりました。

当社は、今後も東京湾の恩恵を未来へ伝えていけるよう、努めてまいります。

模型：水中バックホウの体験コーナー

石井国際事業本部長「国際理解教室」で講演

講演する石井国際事業本部長

当社の石井国際事業本部長が文京区立茗台中学校から「国際理解教室」の講師として招かれ、海外で仕事をすることになったきっかけや具体的な仕事内容などについて講演を行いました。後日、講演を聞いた生徒たちから感謝を込めたお手紙が届きましたので、一部ご紹介します。

「今回国際理解教室で、私が最も聞きたかった話を存分に聞け、大変嬉しかったです。というのも、私は将来世界で活躍、貢献できる人になりたいと考えています。現在英語は私の大好きな教科の一つではありますが、将来、海外で仕事ができるほどの力はとてもじゃないですが、持っていません。だからこの夢は叶えるのは難しいことなのではと少しばかり考えたりしていました。しかし本日の石井さんのお話を聞き、人生は本当に何が起きるかわからないし、その場その場で努力している人は報われるのだと感じました。石井さんのように海外で働くことは私の憧れです。この夢が現実になるよう一日一日努力を積み重ね高校でも大学でもしっかり勉強を頑張りたいです。」

「私は将来海外で働きたいと思っています。しかし、すぐ緊張する性格なので、外国の方を前に上手くコミュニケーションが取れるか不安です。今日のお話の中で、意識(自己)改革というキーワードが出ましたが、私はそれに取り組んでみたいと思います。1ヶ月後に始まる高校生活が良い機会になります。初対面となる大勢の同級生を前に人間力を活用したいと思います。」

ベトナム社会主義共和国における タイビン1石炭火力発電所 ── 土木建築工事

本工事は、ベトナム北部の首都ハノイ市より南東へ約100㎞に位置するタイビン省チャーリー川左岸の約50haの土地に石炭火力発電所を新設する工事で、ベトナム北部の電力安定供給や経済発展に寄与する重要案件として注目を集めています。

当社は同国にて長年培ってきた技術力と経験、ローカル企業との信頼関係や現地スタッフの育成に重点を置きながら、同国のさらなる発展に貢献していきます。

① Teacher's day dated 20 November 2015

2015年11月20日、当現場が所在するMy Loc地区のTeacher's dayの記念式典に招待され、当社社員が出席しました。タイビン事務所として、クレヨン・画用紙各100セット、積木10セットをMy Loc幼稚園に、花束を園長にそれぞれ贈呈しました。

② エイズ撲滅キャンペーン運動

ベトナムはHIV/AIDS有病率が高く、労働者におけるHIV/AIDS対策として感染リスクやHIV/AIDSの知識等を教えるため、現場スタッフや作業員を集めてエイズ撲滅運動を実施しました。

③ 発注者からの感謝状－1 Million Safe Man hours達成

2016年1月27日、「無事故・無災害記録／1 Million Safe Man hours」を達成しました。発注者丸紅から2月26日、1 Million Safe Man hours達成セレモニーで、ベイツ所長に感謝状が授与されました。この記録に満足することなく、さらに「無事故・無災害記録」目標「2 Million Safe Man hours」を掲げ、全社員が一丸となって「災害を起こさない」「災害を起こさせない」を合い言葉に安全・衛生活動に取り組み無事故・無災害記録に挑戦します。

一人ひとりができることからはじめる

エコキャップ活動の推進

当社は、NPO法人エコキャップ推進協会が推進するエコキャップ活動に参加しています。この活動は、ペットボトルのキャップを再資源化してCO_2の削減を図るとともに、キャップの再資源化で得た売却益で世界の子どもたちにワクチンを届けることを目的としたものです。

本社・支店のオフィスから現場まで全社で取り組み、2015年度は435,964個を回収しました。これは3,194kgのCO_2削減に相当し、507人分のポリオワクチンを提供することができました。本活動には2008年9月から参加し、約280万個のキャップを回収しています。

タイ・ラオスに「救援衣類を送る運動」

アジア連帯委員会(CSA)では1980年以来、タイやラオスの難民キャンプや恵まれない方々に「救援衣類を送る運動」を行っています。

東亜建設工業労働組合では毎年この運動に参加し、組合員に協力を呼びかけています。2015年度分としてはダンボール箱58個分の衣類を送りました。